

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「知ってほしい「生」と「性」～産婦人科医からのメッセージ～」
- 2 対象 6年児童、教職員
- 3 専門医 島貫 洋人 医師
(島貫医院)
- 4 実施月 11月
- 5 内容(キーワード)
生命の誕生
思春期のころとからだ
性の多様性



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

とても有効だった

有効だった

課題が残った

<その理由>

*二次性徴に伴う心身の変化や、受精から妊娠・出産に至るまでの基礎的な性の知識に加え、性の在り方が一人ひとり異なることや、誰もがかげがえのない存在であるという視点を学んだ。講話を通して、「多様な性」を理解するだけでなく、自分自身を大切にし、他者の個性や感じ方を尊重する姿勢の重要性にも気づくことができた。「性」にとどまらず、互いの違いを自然なこととして受け止めながら、安心して自己を表現できる生き方について理解を深めた。

②保健教育における校内連携について

とても有効だった

有効だった

課題が残った

<その理由>

*外部講師を招いた性教育を校内計画に位置付けることで、発達段階に応じて系統的かつ継続的に学べる体制づくりが定着した。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

とても有効だった

有効だった

課題が残った

<その理由>

*事前アンケートの実施結果と児童の実態について、専門医・養護教諭・担任間で、事前打ち合わせを通して共有できたことで、児童の実態に即した内容を指導していただけた。

*事前に母子手帳の内容を、ワークシートに(記入できる範囲で)転記してきたことで、生命の誕生を自分事として捉えることができ、これまでの誕生や成長の歩みについて、あらためて感謝の気持ちを抱くことができた。

〔受講者の感想など〕

○体の性と心の性が違う人がいることを知った。でも、それはおかしいんじゃないかと、受け止めることがいいんだなと思った。生と性のことについて、関心が大きくなった。

○受精や出産について、初めて知ることがたくさんあった。たくさんの精子に対して、卵子は1つしかないことが驚いた。出産は、1日以上かかる人がいることもびっくりした。

〔教科やその他の指導との関連性〕

○保健を中心に、理科や道徳など複数教科の学習内容とつながりをもつ内容であり、教科横断的に理解を深めることができた。

